

2020年度

美 術

(〔問5〕を除いて、解答はすべて解答用紙に記入すること)

この試験問題は持ち帰ることができます。

なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。

同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

受験 番号	-----	氏 名	
----------	-------	--------	--

〔問1〕 「中学校学習指導要領」(平成29年3月)第2章 第6節 美術 に即して、次の(あ)～(お)に当てはまる語句を書きなさい。

**第2 各学年の目標及び内容**  
**〔第1学年〕**  
**1 目標**  
 (1) 対象や事象を捉える造形的な(あ)について理解するとともに、(い)に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。  
 (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の(い)と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の(う)などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。  
 (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の(え)を味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく(お)を養う。

〔問2〕 学習指導要領に基づき、中学校第2学年のデザインの題材を構想することとした。以下の問いに答えなさい。

(1) 「中学校学習指導要領」(平成29年3月)第2章 第6節 美術 に即して、次の(あ)～(え)に当てはまる語句を書きなさい。

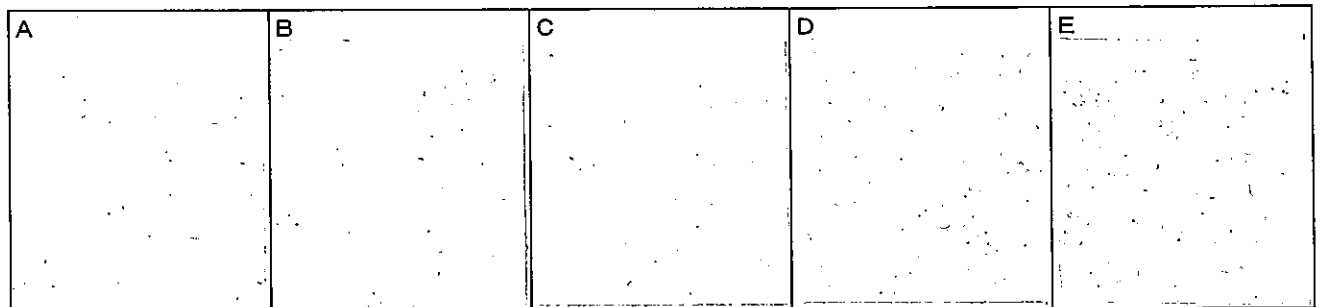
**第3 指導計画の作成と内容の取扱い**  
 1 (略)  
 2 (1)(2) (略)  
 (3) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や資質・能力、発達の特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や(あ)、材料などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項に配慮すること。  
 ア 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するために、(い)の学習を効果的に取り入れるようにすること。  
 イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の(う)の積極的な活用を図るようにすること。  
 ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、(え)などの多様な表現方法を活用できるようにすること。  
 エ 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。

(2) 第2学年において、地元商店街から、各自が選んだ店をイメージした包装紙をデザインする題材を構想した。以下の問いに答えなさい。

① 「中学校学習指導要領」(平成29年3月)第2章 第6節 美術 で第2学年及び第3学年の内容に示されるデザインや工芸の発想・構想に関わる指導内容について説明したもとして、適切なものを「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)を踏まえて次のa～cから1つ選んで記号を書きなさい。

- a 自分の身近な存在だけでなく、伝える相手や内容などから、分かりやすさと美しさとの調和を考え、表現の構想を練ることが重要である。
- b 自分の身近な存在だけでなく、より多くの人に分かりやすく美しく伝えるために多様な受け手の印象などから総合的に考え、表現の構想を練ることが重要である。
- c 自分の身近な存在を意識して、伝える相手や内容などから、分かりやすさと美しさとの調和を考え、表現の構想を練ることが重要である。

② 主題にあったデザインを考える場面で、和の文様の鑑賞を行った。次のA～Eの文様の名称を下の語群から選んで記号を書きなさい。



〔語群： d 鱗 e 七宝 f 鹿の子 g 矢筈 h 麻の葉 i 籠目 j 青海波 k 亀甲 l 紗綾形〕

〔問3〕 工芸について、以下の問いに答えなさい。

(1) 金属工芸について以下の問いに答えなさい。

① 次の文の ( あ ) ~ ( う ) に当てはまる語句を書きなさい。

金属工芸には、( あ )、( い )、( う ) などの技法がある。( あ ) は、槌で打つなどして地金を伸ばしたり平らにしたり曲げたりしてつくる技法、( い ) は、金属を溶かして、砂や石膏などで作った型に流し込んで固めてつくる技法、( う ) は、たがねなどの道具を使い、金属の素地を彫ったり打ち出したりしてつくる技法である。

② 「焼きなまし」について説明した文章として適切なものを、次の a ~ c から1つ選んで記号を書きなさい。

- a 金属をかたくするために、金属を高温に加熱して、水や油の中で急に常温まで冷やす。
- b 金属をやわらかくするために、金属を適切な温度に加熱してから冷却する。
- c 金属を粘り強くするために、焼き入れ温度より低い温度に再加熱し、冷却する。

(2) 漆工芸の体験を通して、生活の中の美術について学ぶ題材を構想した。以下の問いに答えなさい。

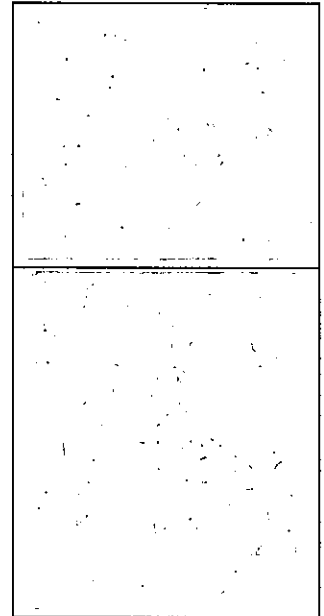
① 下のえ~きは、漆について説明した文である。下線部が正しいものには○、誤ったものには×を書きなさい。

- え 日本では漆を塗料として、平安時代から使われ始めた。
- お 漆は、木材、竹、布、陶磁器などの接着剤としても用いられる。
- か 漆や漆器を表す語としてjapan (ジャパン)がある。
- き 漆膜は、酸やアルカリには弱いが、耐熱性、耐湿性が高い。

② 題材の導入として、生徒が制作の見通しをもてるように、尾形光琳作「八ッ橋蒔絵硯箱」の写真を鑑賞した。作品名にある「蒔絵」は、加飾の技法のひとつである。蒔絵の技法について簡潔に説明しなさい。

③ 生徒が漆工芸の加飾の場面で主題に合う表現ができるように、蒔絵以外の技法も紹介した。それぞれの説明にあった技法名を、下の語群から選んで記号を書きなさい。

技法名	説明
( く )	模様の中に切り抜いた貝を木地に貼ってから、貝の厚さまで漆を塗って研ぎ出したり、貝を漆地にはめ込んだりして表す技法。
( け )	漆面に刀などを使って模様や絵を彫り、彫った部分に漆を塗り込んでから、漆が乾かないうちに金銀の箔や粉を押し込んで表す技法。
( こ )	木地に漆を塗り重ね漆の層をつくり、そこに刀などで立体的に模様を彫り起こしたり、木地に模様を直接彫り、その上に漆を塗ったりして表す技法。



尾形光琳作「八ッ橋蒔絵硯箱」

〔語群： d 平文 e 沈金 f 堆錦 g 切金 h 螺鈿 i 存清 j 彫漆〕

〔問4〕 浮世絵などの日本美術がヨーロッパの美術に与えた影響について、鑑賞を通して考える題材を構想し、鑑賞作品を選ぶこととした。以下の問いに答えなさい。

(1) 作品1~4の浮世絵の作者名をそれぞれ書きなさい。

作品1	作品2	作品3	作品4

(2) 作品5～10の作者名をそれぞれ書きなさい。

作品5	作品6	作品7	作品8
作品9	作品10		

〔問5〕 配られたモチーフ（折り鶴、ビー玉、布）を組み合わせ、それぞれの質感をとらえて、鉛筆で画用紙にスケッチしなさい。

- ・配置や画面構成は自由とする。
- ・配られたモチーフは、すべて使うこと。
- ・画用紙は、縦長・横長どちらの向きでもよい。
- ・使用する鉛筆と消しゴムは、配られたもののみとする。